

## 海を照らす灯台のなかまたち (9)

～庄司太郎碇灯浮標～  
(しょうじたろうばえとうふひょう)

佐田岬灯台の東方 11 キロの海上、大碇の西方 2 キロの海上には「庄司太郎碇」という少し変わった名前の岩礁があります。



国土地理院の 2 万 5 千分の 1 の地形図にもちゃんと載っている。

このやや長たらしい名前から付けられたような気がする。

言い伝えとか、伝説とかがあるのではないだろうか。

庄司は苗字のように思うが、庄司と太郎なのかもしれない。

庄司太郎碇は、烏帽子岩のような小楯谷鼻の断続的に 200メートル程続く岩礁のさらに沖合にあり、海岸からは600メートル程離れている。だから明らかに陸地から連続した岩盤だということが想像できる。

この碇に設置されているのが「庄司太郎碇灯浮標」です。

付近を航行する船舶の安全が守られている。おそらく、かつてここに座礁した船があったのではないだろうか。

灯浮標は陸上からでも肉眼で見えるが、岩礁そのものは干潮にし

か海面上に姿を見ることができない。

佐田岬半島には、〇〇礫（はえ、ばえ）という地名が国土地理院の地形図でも21箇所もあるということです。

岩礁の多い地域でもあるようです。

【庄司太郎礫灯浮標周辺図】



○庄司太郎礫灯浮標要項

所在地 愛媛県西宇和郡伊方町（佐田岬灯台の東方約 11km）

塗色・構造 緑色、やぐら形

頭 標 緑色円筒形頭標 1 個付

灯 質 モールス符号緑光 毎8秒にA（・—）

光達距離 5.5 海里（約 10.2 km）

高 さ 水面上から灯火まで 5.57m

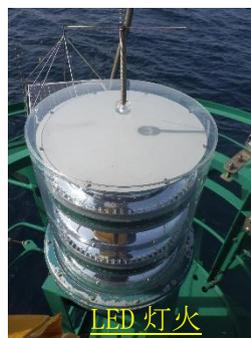
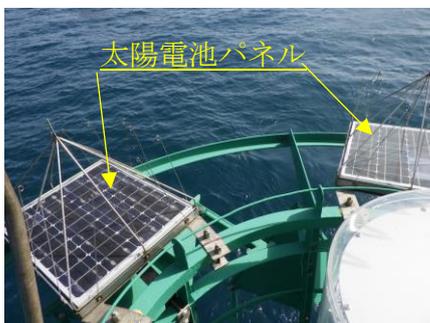
水 深 70.0m

点灯年月日 昭和 30 年 2 月 6 日

★「大八車」No.223（令和2年8月10日発行）掲載分

○庄司太郎燈浮標及び周辺画像





標体内部



制御盤 (開放時)

